

わが家のアイドル



六丁目にお住まいの
杉山 達己さん・明子さんの

長女 弥 来 ちゃん(3歳)

長男 誠史郎 くん(0歳4か月)

弟が産まれてから一生懸命お姉ちゃんになろうとしていた弥来。誠史郎もそんなお姉ちゃんの姿を目で追い、最近は表情も豊かになってきました。お父さんもお母さんも、そんな2人の成長がとっても楽しみです。いっぱい泣いていっぱい笑って、大きくな～れ！

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。

須崎津島神社例大祭のルーツ

明和6年(1769)に下田・柿崎・須崎で磯の境界争い(磯争い)があり、須崎が勝訴し、漁域拡大による村民の生活が向上した事。

そして、磯争いの際に日本全国で疫病が蔓延したが、須崎では津島神社にお祈りしたご利益で亡くなる人はいなかったこと。

この二つの出来事に対して、神様への感謝と崇敬の念から安永5年(1775)に津島神社例大祭が始まったといわれています。

ヨイヨイ、ヨイヨイ

本祭りの日の早朝、祭典奉仕者は海へ入って禊をし、日頃の海の恵みに感謝し、須崎の平和を祈り、神輿を巡行します。神輿は天王組(神社周辺の地区の家々)しか担ぐことができませんでしたが、近

下田人の息づかい

Vol.23

須崎津島神社例大祭
下田の漁村の荒祭り

年は高齢化や人材不足で他地域の人々にも応援してもらい、練り歩きます。

各処で「ヨイヨイ、ヨイヨイ」の掛け声で銚子などの道具が走り出し、道具をぶつけ合い「エンヤ、エンヤ」と練り歩きます。その様はとも勇ましく、正に「海の男、漁村の荒祭り」です。また、銚子同士がぶつかり合って鳴る「シャンシャン」という音と掛け声の調子がとても心地良く響きます。

そして、本祭りの見所は何

といっても神輿の海入りです。海入り前に神輿が何度もぶつかり合い、見物客も拍手や掛け声で一体となります。海の中で鳴る「シャンシャン」という音は、祭りの終わりが名残惜しいと神様が言っているかの様です。

今年7月12・13日に行われる須崎津島神社例大祭は、昔から住民に愛され続けていて、これからも未来へ伝えていきたい下田まち遺産です。

問合せ先 建設課都市住宅係

☎22219



伝わる熱気、男の祭り



「広報しもだ」は再生紙を使用しています



伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>